

身体能力とボールタッチ数はサッカーの試合にどのような影響を及ぼすのか
～2010FIFA ワールドカップの試合の分析～

横田 祐樹 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 高橋 正行

キーワード：身体能力・ボールタッチ数・2010FIFA ワールドカップ

1. 緒言

現代サッカーは、「ポゼッション」と「トランジション」に大きく分けることができる。2010年FIFAワールドカップでは、ポゼッション攻撃が注目を集めた。ポゼッションサッカーは、確実性の高いショートパス（近くにいる味方の選手へのパス）を多用し、徐々に相手自陣へボールを運び攻め上がる。トランジションは、基本的に攻め込まれている状況からの攻撃に切り替える瞬間のことである。

2. 研究方法

本研究の調査対象は、2010FIFAワールドカップ南アフリカ大会で決勝トーナメントに進出したベスト8（準々決勝）以上の試合のDVDを用いての分析である。分析内容は1試合を通してのチームのボールを受けた総数（ボールを受けた総数）とチームの平均身長・体重のデータを収集する。DVDを用いての分析では、録画したDVDを用いた。観察者は一人で検討した。

※ボールタッチ数とは、フリーキック・コーナーキック・ゴールキックはショートパス（近くの選手に短いパス）のみカウントし、スローインはカウントしないものとした。

3. 考察

今回の研究の結果、身長とボールを受けた回

数には弱い負の相関関係が認められた。つまり、身長が高い選手はパスやドリブルよりもヘディング、ポストプレイ、シュートなどで自分で処理する事が多い。身長が低い選手はパスやドリブルなど味方と流動的に動くことが多い。

4. 結論

ボールを受けた総回数が多いチームが試合に必ず勝てるとは限らない。それは、ボールを受けた総回数が少なくても、サッカーで一番大事なゴールを決める決定力があるチームが勝てることもある。身長とボールを受けた回数の関係性は勝敗に大きな影響を及ぼさないことが判った。勝敗には大きな影響を及ぼさないが、優位な試合運びはできている。しかし、ゴールする決定力がないため勝てないことが明らかとなった。これらのことから、ボールを受けた総回数が多くて、ゴールを決める決定力があるチームが試合の勝敗に大きく影響することが明らかとなった。

5. 参考文献

LSIN HOKKAIDO

<http://lsin.jp/howto/?go=detail&title=his&hid=314&kkey=&kana=>

サッカーの戦術 フォーメーション システム Hail-2U

<http://hail-2u.com/history/>